

LORC 2005年12月、2006年1月スケジュール

【12月】

9日(木)

第3班第3回研究会

時 間: 14:30 - 16:30

会 場: キャンパスプラザ京都6F 龍谷大学サテライト教室

- 議 題: 1. 提言書の取りまとめについて
2. 第3班の研究成果の取りまとめについて(出版計画)
3. その他

16日(金)

第8回運営会議

時 間: 10:00 - 12:30

24日(土)

第2班第6回研究会

時 間: 12:00 - 15:00(昼食付)

会 場: キャンパスプラザ京都6F 龍谷大学サテライト教室

- 議 題: 1. 公共性と公益のかかわりについて
2. 2005年度の研究成果について
3. その他

24日(木)

教育・研修システムWG第6回研究会

時 間: 15:00 - 17:00

会 場: キャンパスプラザ京都6F 龍谷大学サテライト教室

- 議 題: 1. 熊本研修プログラム試行について
2. 来年度の研修プログラムについて
3. その他

【1月】

14日(土)

第1班第2回研究会

時 間: 13:30 - 14:30

会 場: キャンパスプラザ京都6F 龍谷大学サテライト教室

- 議 題: 1. 2005年度第1研究班研究活動の事業経過報告
2. 2005年度海外調査報告
5月リバプール調査及び11月ロンドン、ウェールズ、湖水地方調査
3. 東京農工大学共同プロジェクトについて
三重県における政策システムづくり

14日(土)

第1研究班・地域人材像WG合同研究会

時 間: 14:30 -

会 場: キャンパスプラザ京都6F 龍谷大学サテライト教室

内 容: 「地域人材像の検討」

第1研究班研究員 立正大学法学部 山口道昭教授より地域人材像についてご発表いただきます

参考文献 今川晃・山口道昭・新川達郎編「地域力を高める これからの協働 - ファシリテータ育成テキスト - 」第一法規 定価 2,625 円

2006年1月20-21日(金、土)

2006年 LORC 国際シンポジウム：「地方政府主導からマルチパートナーシップへ - 地方分権時代の新たな公共性に対応する人材育成システムの創造 - 」

日時： 国際シンポジウム

2006年1月20日(金) 10:00～17:00

教育研修ワークショップ

2006年1月21日(土) 9:30～16:00

会場： 京都リサーチパーク バズホール(西地区4号館)

基調講演：

ライナー・ピチャース(シュパイヤー行政大学院教授：ドイツ)

「地方分権時代における新しい公共性とローカル・ガバナンス」

スティーン・サイレット(ミドルセックス大学教授：英国)

「英国のローカル・ガバナンスにおけるコミュニティ参加の実現に向けて：教育研修への要求と対応」

* 詳細はウェブサイト (http://lorc.ryukoku.ac.jp/2006_intsympo.html) をご覧ください。

各班活動状況

第1班 RA 辻本 乃理子

本年1月28日に三重県にて開催されましたシンポジウム開催記録となるブックレット「暮らしに根ざした心地良いまち」が公人の友社より発行されました。

1班の研究会は開催されませんでした。10月30日から11月11日まで、1班代表白石教授、2班代表土山助教授、3班研究員小山善彦氏とPD的場、RA辻本が英国調査を実施しました。LSPの中間的な評価は好意的に受け入れられた状況になっていることが確認できました。しかし、英国政府はLSPとは別の新たな制度の導入に向けて動きだしており、LSPと新制度のかねあいなど今後の動向が注目されます。調査結果は今年度末もしくは来年度初旬にブックレットとして発行予定です。

次回研究会は、来年1月14日(土)13:30より1班単独の研究会を、14:30より1班と地域人材像WGとの合同研究会を同時に開催いたします。

第2班 RA 田村 瞳

11月28日(月)に第五回研究会を開催した。ここでは、LORC年度内事業予定 国際シンポジウム及びワークショップ 公共政策カリキュラムについて議論した。まず、 においては第2班の年度内事業として研究会をあと一回12月に開催、そして3月に、デンマークに本社を持つ自治体や企業向けの人材育成を世界的に展開しているグリーン・シティ・デンマーク社の社長を招聘し、講演会を設けることで合意した。次に、 においては富野先生による1月開催予定のワークショップに関する説明及び各研究員に対する役割分担の依頼が行われ、研究員からの同ワークショップに対する協力を得た。 においては、以前からの継続協議である公益と公共性のかかわりについて、前回の富野先生の報告を踏まえ、阪口先生による報告が行われ、討論となった。意見の集約までには至らなかったため、次回の研究会までに各自、公益に関してまとめてくることで合意した。次回の研究会は、12月24日(土)、

第3班 RA 田村 瞳

* 第3班は現在実質的な研究活動は行っておりませんが、昨年度から継続の活動が多少残っておりますので、昨年度担当 RA の田村より報告を致します。

次回研究会は12月9日(金)に開催予定。ここでは、第3班の3年間の成果をまとめた提言書「“地域人材育成”の開発とその社会的認証に関する提言」の原稿(各自役割分担)を校正し、最終的なものとしてまとめる。この提言書は、後日冊子にして関係者に配布する。また、この提言書の中身を具体的に説明したものを出版化し、日本評論社から来春発行する予定。

第4班 RA 新井 健一郎

この夏より調整を進めてきたアジア・アフリカにおける研修プログラム・機関サーベイは、インドネシア・スリランカ・南アフリカで実施担当者が決まり、順次調査を開始することとなった。それぞれ年度末を目処に報告書をまとめる予定としている。加えて、インドに関しては、加藤里香氏が10月末から11月初頭にかけて6つの研修関連機関を訪問し、昨年に引き続き聴き取り調査を行った。

また、出版予定書籍に向けた研究体制整備も徐々に進みつつある。スリランカでは、現在財政委員会の委員長を務める Asoka Gunawardena 氏の協力を得て研究が始動しつつあるのに加え、2月には LORC より研究員がガーナを訪れ、ガーナ大学の研究者と研究協力に向けて協議をする予定。

特定研究 WG 担当 RA 朴 重信

12月2日には、滋賀県高島市の企画部の職員との会議が LORC 支援室で開催されました。参加メンバーとしては、龍谷大学 LORC の広原先生と朴の2人、そして高島市の企画部自治共同参画課課長の拝藤さん、企画部自治共同参画課係長の西川さん、市民環境部環境政策課の鈴木さんの3人、合計5人です。前回(10月4日の市長面談会)の会議内容に基づき、2006年度ワークショップ「「協働型・循環型社会に対応する行政のあり方を考える」の具体的なプログラム内容を提案し、その内容について意見交換を行いました。2006年度ワークショップ「協働型・循環型社会に対応する行政のあり方を考える」の具体的なプログラム内容を紹介しますと、研究プログラムに関する職員研修及び講演会、「まちづくりプロジェクト研究

会」の運営、ワークショップの開催、2006年度の研究プログラムのシンポジウム(ワークショップの成果発表)の4つを想定して提案しました。現在、高島市ではこの4つのプログラムに基づいて2006年度の予算を立てたいという意向を示しており、その具体的なプログラムの調整と予算計画について取り組んでおります。来年からは本格的にプロジェクトが動き出す模様です。

教育・研修システム WG: RA 田村 瞳

9月30日(金)に教育・研修システムWGを開催した。ここでは、熊本市の研修プログラムの基本的枠組みについて議論し、以下のことを決定した。まず、研修は 幹部研修 市民協働型研修の2種類を実施。の幹部研修(対象者:課長級以上の管理職全員+市長)については、LORC 内で協議の上、「市民と行政の協働を考える」をテーマに座学講習を2回実施。の市民協働型研修(対象者:各部から係長級職員1-2名程度(全体で30名程度)+NPO等の市民6-12名程度(推薦))については、講義2回、ワークショップ3回、市民協働コンペ1回の合計6回(18時間程度)の合同研修の実施。ただし、内容については運営委員会を発足させ、協議しながら進めていく。以上の基本的枠組みを描いたLORCからの提案を熊本市に提出し、熊本市内部での協議の結果、この方針で進めていくことが決定された。実施は、1月の予定。次回研究会は、12月24日(土)に開催予定。

LORC information

2006年LORC国際シンポジウム:「地方政府主導からマルチパートナーシップへ - 地方分権時代の新たな公共性に対応する人材育成システムの創造 -」のウェブサイトをアップロードしました

以前からこのニュースレターでもお知らせしておりました来年1月開催の国際シンポジウムですが、この度専用ウェブサイトをアップロードしました (http://lorc.ryukoku.ac.jp/2006_intsympto.html)。こちらから、当日のゲスト・スピーカーやスケジュールといった情報が掲載されたPDF版のチラシと参加申込書にアクセス出来ますので、是非一度ご覧下さい。

なお、本シンポジウムは、完全公開でどなたでもご参加頂けますが、同時通訳機材手配のため、ご参加には参加申込みが必要となります。締切りは1月10日(火)となっておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

ブックレット第3号「暮らしに根ざした心地良いまち」が出版されました

LORC 地域ガバナンスシステム・ブックレットシリーズの第3号、東京農工大学 COE - 新エネルギー・物質代謝と「生存科学」の構築、龍谷大学 LORC (企画・編集)「暮らしに根ざした心地良いまち」(公人の友社)が出版されました。2005年1月28日に開催した三重県政策開発研修センター第6回トレンドセミナーの記録をまとめたものです。詳しくは <http://lorc.ryukoku.ac.jp/bl3.html> をご覧ください。

特別コラム：RA 辻本英国調査紀行

昨年に引き続き今年も英国調査をさせていただく機会を得ました。今回は London、南ウェールズ、そして湖水地方の3地域で調査を行いました。調査報告は後日ということにして、今回はお硬い話は抜きのイギリスおのぼりさんの視点から報告します。

1) ロンドン

昨年は調査の中休みを利用して訪問したので2回目です。

サンドウィッチショップ(日本でもあるSのつくショップ)でカフェ・ラテを注文したら、発音が悪かったのかまったく伝わりませんでした。やっとのことで注文できて、ほっとかし。いつまでたっても出てこない。出鼻をくじかれがっかりしているのを慰められました。ひるまず大きな声で発音したらいいよとアドバイスでその後は大きな声で発音。その後はどこにいてもカフェ・ラテを注文してもちゃんと出てきます。今では店員に聞く気がなかったんだと自分に言い聞かせてます。

2) 南ウェールズ

南ウェールズではグランドワークが調査先の一つ。緑の研究をやっている(やっていた?)私にとって、一度は調査を試みたいところでした。訪問した時間が夕方だったので、あたりは薄暗く現場を拝見できなかったのが残念ですが、今度訪問したらいろんなアクティビティーを体験したいと思いました。

Rhondda Cynon Taff (地域再生を目的としたチャリ

ティ団体)の調査では、市長がおでましに。私達の訪問が広報に掲載されるとかで、写真をばしばし撮られました。市長と名刺交換。市長から「本来若い子には名刺を渡さないんだけどね」といわれ、「えっ、私って若い子??」と心の中でつぶやきながら、顔は笑顔で対応。確かに日本でも実年齢より若く見られてますが・・・。Rhondda Cynon Taff のスタッフの女性のジュリアから「結婚してるの?」と質問。その次は年齢も。個人情報を知られるということは親近感を持ってもらえたのかなと思いつつ、年齢について何歳に見えるか聞き返したら実年齢よりはるかに若い年齢を言われました。ああ、やっぱり若く見えるんだ~と笑いながら実年齢を答えるとびっくりした表情。その後ジュリアと年齢が近く意気投合。日本人は実年齢より若く見えることが私を事例に実証されました(そんな調査じゃないはず)。

ウェールズから湖水地方に向けて移動中。標識にはウェールズ語と英語の両方の表記が。ウェールズ語は母音がないうところがあり、発音がわかりません。英語の発音も怪しいところがある私ですが・・・。

3) 湖水地方

どこにいても羊さん。ロンドンを出発してからずっと羊さんを見てました。始めは「羊さん、羊さんルンルン」と喜んでましたが、さすがに普通になりました。

昼食、あるパブでタイのグリーンカレーを注文したら、「ライスとポテトのハーフがあるけどどうする」と聞かれて。カレーにポテトですか?そりゃ~ないでしょう。もちろんライスオンリーにしました。

調査の中休みを利用して観光の予定が大雨。「今日は車の中からの観光ね」と思っていたら晴天に。雨男が2人いるとのお話でしたが、日頃の行いがよいのか、私が晴れ女なのか、湖と山の緑が調和した美しい景色を見ることができました。

もっと積極的にならなくてはと自分自身の行動では課題を残すことになりましたが、今回もみなさまのおかげで研究以外にいろいろな体験をすることができました。このような機会を与えてくださった LORC のみなさんに感謝の気持ちをこめて終わります。

LORC 資料室内文献紹介

皆様からも有益な文献・映像資料などの情報をお寄せ下さい。ご協力宜しくお願い致します。

財団法人 まちづくり市民財団 政策研究レポート

「まちづくりと市民参加 市民社会へ - 個人はどうあるべきか」2002年12月

「まちづくりと市民参加 市民活動と自治」2003年12月

「まちづくりと市民参加 市民社会へ」2004年12月

Stoker, G. and Wilson, D. (eds.) (2004) *British Local Government into the 21st Century*, Basingstoke: Palgrave Macmillan

Denters, B. and Rose, L. E. (eds.) (2005) *Comparing Local Government - Trends and Developments-*, Basingstoke: Palgrave Macmillan

6 P (Perri 6), Leat, D., Seltzer, K., and Stoker, G. (2002) *Towards Holistic Governance - The New Reform Agenda-*, Basingstoke: Palgrave Macmillan

Stoker, G. (ed.) (2000) *The New Politics of British Local Governance*, Basingstoke: Palgrave Macmillan

雑誌の情報は以下のサイトへ！

ガバナンス

http://www.gyosei.co.jp/book/g_zassi/gover/index_gover.html

日経グローカル

<http://www.nikkei.co.jp/rim/>

掲示板

第2班研究員松浦さと子先生の研究成果が出版されました！

「情報時代の消費者教育 消費社会創造の政策提言を目指して」『消費生活思想の展開 現代消費者教育論』日本消費者教育学会 25周年記念論文集 (p,173-180) 税務経理協会閣 2005年10月

(<http://www.zeikei.co.jp/sshinkan.html>)

「干潟保全運動からの市民ジャーナリズム 藤前干潟保全の電子ネットワークを介した環境アドボカシー」編集企画：津金澤聡広・武市英雄・渡辺武達『叢書 現代のメディアとジャーナリズム 第二巻 (責任編集：橋元良明・吉井博明) ネットワーク社会』(p,291-294)ミネルヴァ書房 2005年9月

(<http://www.minervashobo.co.jp/find/details.php?isbn=04311-8&PHPSESSID=ec4e1cab1d5d917a289641f2ebffb320>)

新聞・雑誌などの記事について

新聞、雑誌などにご自分の記事が掲載された時は、ぜひ LORC 支援室的場 (matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp) までお知らせ下さい。こちらでも出来るだけピックアップするようにしていますが、すべてをカバーするのは困難ですので、宜しくお願い致します。

土山先生のアイランド滞在記

アイランドと私(5) ----- ロックスミスと私

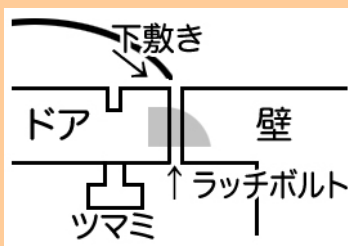
「アイランドで私を危機に陥れるのは誰か悪い人ではなく私自身のうっかりである」を真理とする私。いつかやると恐れていましたが、とうとうやりました。

その日、私は急いで洗濯しようとしていました。夕日のあるうちに、地下のランドリーから洗濯物を回収したいというだけの理由で。洗濯物をまとめ、固形洗剤を用意し、料金も持って(時々忘れるので注意)、部屋を出て地下まで軽やかに駆け下り(時々転ぶので注意)、洗濯物を放り込み、コインを入れてスタート! さあ、部屋に戻ってお茶でも…。あ、部屋の鍵(さつと血の気の引く音)…忘れた。

持ち物は洗濯物だけで、ということは財布も携帯もなかった私の、その後の「多少の」混乱と、混乱する余力もなくなって落ち着いた過程と、やるだろうと思って早めに作っておいた予備の鍵を結局部屋においていた理由はさておき。今回も親切なアイリッシュに支えられ、鍵開け業者「ロックスミス」を呼ぶところまでたどり着きました。向かいのオフィスのガードマン氏に借りた電話でやりとり。「ふつうの鍵か」「たぶん…。小さい鍵1つだけ」。わが家の鍵はかんぬきではなく、内側からはツマミ(サムターン)、外側からは鍵でラッチボルトを回して開けるタイプのもの。120ユーロの予定価格を夕闇迫る街角を見ながら受け入れ、夜風を避けてアパートのポーチでロックスミスを待ちます。

来るのはロックスミスです。ゴールドスミスやシルバースミスなどと同様、職人の属性を名称とするロックスミス。「匠」です。この苦境から目にも鮮やかに助けてくれることでしょう。どんな手際なのか、ちょっと楽しみ。さあ、来ました! かなりクセのある発音でかつ早口の彼は部屋の鍵を一見するやスプレーをとり出し、たっぶりドアと壁の境にあるラッチボルトに吹きつけます。チェーンや蝶番などの滑りをよくする、アレです。それから、下敷きをちょっと頑丈で柔軟にしたようなプレートで、グイグイとそのラッチの部分に差し込み…開きました(下図を参照下さい)。え、何? それで開くの? 待って、違う、それはスミスのワザではない! それは単なる力技で、その下敷きがあったら私もできる。混乱してるときに馬鹿げると知りつつ試してみてもしまった「安全ピンでひっかけてみる」に近いじゃないか。というか、それがアイランドの「ふつうの鍵」なの? それでいいの? やや呆然とする私を尻目に、ロックスミスはきっちり予定価格を回収して疾風のように去って行きました。

私の真理はまた証左を得てしまったわけですが、「アイランドは『悪い人はいない』前提で動いている」という推論も証明に一歩近づいてしまいます。玄関ポーチにも施錠がしてあるせいなのでしょうけれど、古い建物だからなのでしょうけれど、「ふつうの鍵」がこれでいいのか。別の安全対策したほうがいいのか。それにしてもあの下敷き、DIY屋で5ユーロくらいで売ってたりするのではないか。それとも実は特別な「匠の道具」なのか。いやいや何よりも、私のばかめ…。洗濯物を干しながら、思索の尽きない夜更けなのでした。



LORC 研究員のひとこと（紹介）

今月の研究員紹介はお休みとさせていただきます。次回をお楽しみに。

編集後記

あっという間に師走になり、1年間何をやってきたのか？と頭の中と身の回りを整理中。整理が終わらず新年に突入か！？来年もよろしく願い申し上げます。（N）

今年は秋の温度差があまりなかったため案の定、紅葉はイマイチ…。だけど京都の街はどこもかしこも紅葉を巡る観光客で溢れています。（H）

いよいよ本格的に寒くなってきました。（K）

体のあちこちが冷え込む季節が来ました。12月10日(土)には皆さんをご存知のように、Mキャプテンがご結婚されます。寒い季節だからこそ、お二人の愛がもっと暖かく感じられます。ご結婚、おめでとうございます。（J）

一身上の都合により、12月9日(金)より12月22日(木)まで長いお休みを頂きます。皆様にはご迷惑をおかけ致しますが、どうぞ宜しくお願い致します。（T）

LORC Newsletter Vol.15, 7 December 2005

編集・発行：龍谷大学地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター（LORC）支援室

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67

TEL: 075-645-2312 FAX: 075-645-2240

E-mail: matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp (PD 的場) WEB: <http://lorc.ryukoku.ac.jp/index-jp.html>